

人口減少・少子高齢化

帰ってきたい・住み続けたいまちづくり 【三朝の人口を増やすためには？】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<ul style="list-style-type: none">・アスレチック →無料の遊び場 →都会の人がお手頃だからときてくれるかも（町民課） ・三朝のツアーを開く（若い人向け）登山、宿泊先は安い （観光交流課） →三朝の魅力を知らせてもらって、移住者を少しでも増やす。 例. 三徳山登山アピール（スリル満点の～） ・三朝の木を使って自然アート（農林課） ・三朝町の SNS アカウントを開設（企画健康 DX） →また YouTube アカウントも作る →ラドンなどのマスコットと鳥取県出身の芸能人（有名）との交流を SNS などに載せる ・三朝温泉の新たなサービス（観光交流課） →入ったら一回半額券・子供のためのお菓子 ・地元に戻っても子育てできるような環境を作る（新婚に優しい価格のアパートなど）（建設水道課） ・結婚をポジティブに考える（企画健康 DX）	山口良課長	<ul style="list-style-type: none">・子ども公園の計画を進めていますので、御意見も参考にしながら、人が集まる、それを目当てに三朝に来てもらえる施設を検討してみたいと思います。 ・三徳山登山の魅力を若者目線で発信し、若者に魅力のあるツアーなど可能かどうか関係団体と検討してみたいと思います。 ・三朝の木も町の一つの魅力であります。何ができるのか色々な分野の視点で考えてみたいと思います。・三朝町の SNS アカウント、YouTube アカウントも所有していますが、御意見を参考にしながら町の PR という目線で積極的に活用できるように考えてみたいと思います。 ・三朝温泉の新たなサービスについて、御意見を参考にしながら関係団体と一緒に、何が効果的なのか考えてみたいと思います。 ・子育て世代、新婚世代をターゲットとした住宅施策も重要な視点でありますので、ニーズの把握など検討してみたいと思います。 ・結婚に対する感覚は人それぞれであり、何がどうなればポジティブに考えられるのか、若い人との意見交換な

		ど実施してみたいと思います。
--	--	----------------

人口減少・少子高齢化

多様な暮らし方への応援と移住促進

【この町を日本1に！！】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<ul style="list-style-type: none">・ SNS を活用（企画健康課 DX 定住推進係） →三朝をたくさんの人に知ってもらう ・ イベント開催（観光交流課） →旅行者を増やす ・ 空き家のリフォーム（企画健康課 DX 定住推進係） →移住者が移住しやすいようにする ・ 職場を増やす（観光交流課） →職場が少なく、移住したとしても働き場がない ・ 給食費タダ、大学まで医療費タダ（福祉課） →子育てしやすい環境を作ることによって移住者を増やす ・ おむつ支給（町民課子育て担当） →子育て世代への支援	竹本参事 松村参事	<ul style="list-style-type: none">・ 現在、SNS の活用については、X と FB は町 HP と連動していますが、更にインスタとの連携や観光協会 HP との連携等も視野に入れて、今後更に SNS を活用した取り組みが活発になるように検討したい。 ・ 移住促進のみを目的とした単発のイベント開催は困難なので、既存の日本遺産 WEEK イベント、花湯祭り、キュリー祭等とコラボしたイベント実施が可能かどうか模索したい。 ・ 空き家のリフォームだけにこだわらず、空き家バンクの登録件数増加の取り組み等とも合わせて移住者の選択肢が増えるための方法について検討したい。 ・ 商工会等と連携して、求人に対して幅広い情報提供が出来るような体制としたい。 ・ 町の財政状況も勘案しながら、子育てしやすい環境づくりに努めます。 ・ 子育て世代にどのような支援が効果的なのか検討しながら実現可能な施策について考えたいと思います。

<p>・インターネット環境の充実（観光交流課・企画健康課 DX 定住推進係） →どこでも仕事ができる</p>		<p>・町単独での取組みは限界があるので、町内事業者とも連携を図りながら、町全体でインターネット環境が充実できるように検討していきたい。</p>
--	--	--

人口減少・少子高齢化

みささ教育の推進とみささ人の育成

【MSJ (Misasa Super Junior) 育成計画】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<p>1. 国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校でも国際交流の機会を作る・調理実習で外国の料理を作る・外国人と一緒に給食を食べる <p>2. みささ教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・地域学習をフィールドワークにする・小中合同で運動会、文化祭をする・小中で縦割り班を作り、その班で遊ぶ・漢検、数検を学校で受験できるようにする	角田課長	<p>○MSJ (Misasa Super Junior) の育成において</p> <ul style="list-style-type: none">・三朝小学校では、今年度から台湾の小学校とのオンライン交流が始まりました。これを機会に中学校での台湾交流事業への理解が深まり、台湾に行きたい生徒が増えることを期待します。・町内在住の外国人の方々との交流については、多数の外国人研究員さんが在籍する岡山大学の惑星物質研究所等を窓口学校教育活動の一環として協力をお願いすることで実現できると考えます。小学校新校舎の家庭科室で、児童生徒と一緒に調理実習やランチタイムが出来れば、とても素敵なことですね。・地域探求やふるさと学習をフィールドワーク中心にすることで、話を聞くだけでなく、実際に見て、体験し理解を深める取り組みになることでしょう。そのためには、今後、さらにコミュニティースクール（地域学校協働活動）をはじめとする地域の皆さんとの連携を深めていくことが必要です。・小学校新校舎の供用開始後、児童生徒たちの距離感がグッと縮まったと感じています。合同行事や児童生徒の縦割り班、様々な検定へのチャレンジ等、今後、皆さんの提案が具現化できるよう、教職員や学校教育関係者が一緒になって協議を進めていきます。

世代間交流の希薄化

つながりを大切にする地域づくり

【未来に繋げる】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動に参加する ・ 他の地域との関わりを増やす。 → イベントなどでコラボする → 三朝を PR する ・ 地域を盛り上げる。 → 地域のイベントに参加する ・ 自分たちができることは手伝う → 雪かき、災害時の手助け ・ イベントを高齢者ではなく、若い人が進める。 → 高齢者に楽しんで参加してもらう ・ わいわいパレードで地域だけでグループを作らずに会社などで組む → 小さいグループから成長させ大きなグループにする ・ 踊りなどの伝統行事を引き継ぐ → 積極的にイベントに参加する 	<p>岩山課長 新局長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町が主催の行事で、学校を通してボランティア活動をお願いすることがあります。積極的に参加を検討してみてください。 ・ 社会福祉協議会は、いろいろなボランティア活動を支援しています。どんなボランティアグループがあるのか調べてみるのも良いでしょう。 ・ 若い皆さんは、SNS など自分で情報発信する方法を身に付けている方が多いと思います。進学や就職などで県外に住む若者に広報や町のお知らせを送り、三朝町の今を知っていただく仕組みもあります。 ・ 集落や地域協議会などで、年間を通じて多くの行事・イベントが開催されています。様々な年代の方が参加されるので交流を図るには最適と思います。 ・ まずは、家の周りや近所で協力してみることがよいでしょう。無理のない範囲でチャレンジしてみてください。 ・ 確かに社会の多くのことは大人だけで決めています。今回の「未来を語る会」のような取り組みを続けて一緒に実践していくことが大切と考えます。 ・ 大規模な職場や事業所がなくなってきていますが、まずは小さなグループでも参加しやすいよう工夫する必要があると考えます。 ・ 以前は学校の運動会で三朝小唄を踊っていたことがありました。普段から伝統行事に慣れ親しむことも大切

・町の課題を他人事とせず自分の課題として考える

ですね。

- ・集落や家庭の中でも、年間を通して色々な伝統行事があります。例えば、村の神社への初詣、どんどさん、節分、ひな祭り(桃の節句)、春のお彼岸、子どもの日(端午の節句)・・・皆さんは関わってますか？役割はありますか？まずはそこから始めてみてはどうでしょうか。(「地域を盛り上げる」にも共通する)
- ・全体のテーマの根幹として、特に大事な考え方です。誰かがやってくれる、時間が過ぎればどうにかなると思っても、なかなか課題は解決しないものです。自分のこととして真剣に考えることは、相手にも伝わります。ぜひ、その気持ちを持ち続けてください。
- ・全体を通して共通することですが、最初から大きな動きは難しいです。まずはご近所、集落の状況を知りましょう。ご近所にどんな人が住んでいるのか、困っていることはないのか、自分にできることは何かあるのか、協力してくれる人はだれかなどを考えてみましょう。

行動範囲の広域化

住みたいと思えるみささの魅力発信 【Come on 移住者！】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<p>・ラジウムラドン温泉大学の建設 (大学生が住みやすくするために) →アパートの建設 →飲食店を増やす</p> <p>・情報発信を多くする →有名なインフルエンサーを連れてくる →インスタを使った魅力発信 →ティックトックでラドンを踊らせる</p> <p>・自然を生かした施設を増やす (アスレチック施設、スキー場、サイクリング施設など)</p> <p>・虫を駆除する →何でも屋を作る</p>	<p>米田真参事 山中課長</p>	<p>・大学誘致やアパート建設は非常に大きなプロジェクトのため、即時実現は難しいですが、若者が住みやすい環境づくりは重要と考えています。飲食店については、創業支援など出店しやすい環境づくりに努めていきます。</p> <p>・有名インフルエンサーの活用やインスタ、TikTokを活用した情報発信は、町の認知度向上に有効な手段だと思っています。役場の広報活動にも取り入れられるよう導入を検討します。</p> <p>・アスレチック施設、スキー場、サイクリング施設といった自然を活用した施設は、町としてランドマーク的な存在となります。これらの施設整備には多くの資源や時間が必要となりますので、長期的な視野で実現の可能性を探りたいと思います。</p> <p>・一人暮らしのお年寄りが増えていく中で、虫の駆除に限らず、地域の中に頼れる存在があるということは非常に大切ですので、地域活動や既存サービスとも連携を図りながら問題解決に努めていきます。</p>

行動範囲の広域化

関係人口の増加と滞在スポット創出による交流推進 【三朝をチャージ】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<ul style="list-style-type: none"> ・ PR (す～は～温泉, 観光大使ココリコ遠藤さんと協力して CM) ・ 西小、東小、南小を使ってホテルや観光スポット(お化け屋敷)にする ・ 寺, 三徳山, 橋, 役場ライトアップ&イルミネーション ・ 東小や南小のプールを釣り堀にする ・ 花をたくさん植える(けんこうむら, 役場) ・ ジビエ料理の店を出す (メニュー例: 鹿肉, 猪肉, カレー, フルコース, ローストビーフ) ・ ツリーハウス、グランピングなどの自然と触れ合うスポットをつくる ・ 三朝サイクリングロード 	矢吹課長 吉田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人に三朝町を知ってもらい、三朝町に来たいと思ってもらえる効果的なPRに努めます。 ・ 旧東・南小については、利活用事業者の募集を行っています。今後どう活用されるか関心を持って見てください。旧三朝小については、町民のための活動拠点施設として活用する方向で検討しています。 ・ ライトアップやイルミネーションは集客効果やPR効果は高いですが予算もかかります。規模は小さいですが、ライトアップやイルミネーションの取り組みをすることもありますので、皆さんへの周知に努めます。 旧東・南小については、利活用事業者の募集を行っています。今後どう活用されるか関心を持って見てください。 ・ 美しい自然の景観は集客効果が高いですが、維持管理が大変です。町内でもキュリー公園や小鹿地域の道沿いに町民の方がきれいに花を植え手入れをしていただいておりますが、町民皆さんの協力が必要です。 ・ ジビエ料理を提供されている事業所もあります。三朝観光公式サイトをのぞいてみてください。 ・ 大きな予算がいる事業はすぐの実現は難しいです。三朝町には自然豊かなスポットはたくさんありますので、皆さんに知ってもらおうようPRに努めます。 ・ 吉田奏太さんを始め、町内出身の皆さんの活躍は町に

<p>(吉田奏太さん練習コース体験・聖地巡礼)</p> <ul style="list-style-type: none">・動物が入れる温泉・フランスと台湾の輸入店・コンビニロード(ファミマ建設)		<p>とっても嬉しいことですので、活躍の様子を広報誌等で紹介していきたいと思います。教育委員会でもサイクリングイベントを開催していますので、ぜひ参加ください。</p> <ul style="list-style-type: none">・動物が入れる温泉を作るのは現時点では困難です。・国際交流事業の中で、両国の物産を紹介、販売する取り組みが検討できるかもしれません。・ファミマ建設は町で行うのは困難です。
---	--	---

地域資源の活用

「みささブランド」の確立をランドマークの創設 【神倉大豆の全国ブランド化】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<p>〈みささブランド〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取、倉吉、米子などの主要駅で神倉大豆の商品を販売してもらおう。 	<p>藤井和課長 毛利館長</p>	<p>(検討状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要駅周辺では倉吉駅の横にある、くらよし駅横プラザにおいて販売しています。また、駅周辺ではありませんが、県東部では、鳥取市賀露のJA直売所わったいな、西部では日吉津村のJA直売所アスパルなど、県内外32か所のスーパーや直売所で取り扱いがあります。 <p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、山陰両県を中心に販売促進を図っているところです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税の返礼品で、神倉大豆の商品のバリエーションを増やす。 →新商品開発の費用に使用する。 		<p>(検討状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、水煮と味噌がふるさと納税の返礼品として登録されています。豆腐や豆乳など賞味期限が短く宅配に向かないものもあります。 <p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品として自宅で楽しめる「とうふ造りキット」も提案してみたいと考えます。 ・ふるさと納税はよいPRの場所になると考えますので、バリエーションを増やせるよう努力したいです。 ・ふるさと納税で納入された額を新商品の開発費用に

		<p>充てるということについて、新商品を開発するのは町が行うのではなく、神倉大豆商品を販売したいという企業が開発することになると思うので、直接的に費用に充てることは難しいですが、開発を支援する別の形の補助金・助成金制度をつくることは可能ではないかと考えます。</p>
<p>・神倉大豆（神のつぶ）にひきわり納豆を追加、神倉大豆を使った枝豆、醤油を開発する。</p>		<p>(検討状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に検討した際には、費用が高かついたり（ひきわり納豆）、生産者向けの補助金の要件にあわなかったり（枝豆は野菜あつかい）、一度に仕上がる量が多かったりして（醤油）、実現されませんでした。 <p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者のニーズを調査し、さらに費用対効果を検討して、将来チャレンジする企業が出てきたら、支援したいと考えます。
<p>〈三朝町の魅力〉</p> <p>・三朝温泉を活用した地熱発電所を作り、観光地にする。</p>		<p>(検討状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前、ふるさと健康むらに『観光植物園パオパブ』があったことを知っていますか。この施設は、温泉熱を利用した温室植物園でした。三朝温泉は、残念ながら温度の低い温泉ですので、熱利用は難しいと考えます。
<p>・出て行った人に帰ってきてもらえるような魅力を作る。 (教育費無償化など)</p>		<p>(検討状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、町外で離れて暮らす若者で希望する方へ定期的に情報を届ける「ふるさとレター」事業に取り組んでいます。また、町には、現在『移住定住』をミ

		<p>ッションとする地域おこし協力隊員が着任しています。三朝町の魅力を発掘、PR し、I・U・J ターンなど移住定住者を増やす活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育無償化は、これまでに検討したことがないと思われます。 <p>『教育』は、日本国民として必要最低限保障されるべきことであり、小、中学校の義務教育については、日本全国どこでも同じレベルの教育を等しく受ける権利があると考えます。費用負担についても、国の責任において検討すべきものと考えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「三朝」を読めるように、「みささ町」にする。 (さいたま市のように) 		<p>(検討状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地名については、諸説あると思いますが、『三日目の朝には病が治る』という温泉にちなんだという説があり、三朝温泉のPRにもうたっていますので、ひらがなではない現在の漢字表記の方が、インパクトはあると考えます。

地域資源の活用

日本遺産を活かした産業振興と地域活性化 【Please come to Misasa】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<ul style="list-style-type: none"> ・三徳レンジャーに三朝での活動を多くしてもらう ・シャトレゼさんに三朝の大豆などを使ったスイーツを作ってもらい、売ってもらう。 ・温泉をライトアップする ・町民割をし、三朝町民が温泉を利用してくれる機会を増やす ・三朝ミストを使ったことを SNS で宣伝してくれた人に温泉割引をする ・イモトさんや山本舞香さんなど鳥取出身の人に来てもらい、三朝温泉、三徳山を発信する ・大瀬や横手とかにある地域の温泉施設を増やす ・高校生から上の方が三朝の日（町長の誕生日や3月3日など）で三朝温泉や三徳山を紹介する投稿を SNS にあげる ・寺カフェりんつや三徳山の近くにあるカフェをもっと発信する ・三朝ミストをドラッグストアに置いてもらう ・美容家のインフルエンサーの人に来てもらい、温泉を美容としても発信していく 	<p>谷川課長 山本達課長</p>	<p>三徳レンジャーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内で農作業を中心として活動していただいているところですが、今年度は三朝町駅伝大会にご参加いただいております。今後も活動の輪を広げていただけるよう働きかけていきたいと思っております。 <p>温泉ライトアップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉に照明をあててのライトアップというのは困難かもしれませんが、シンボルとしてスポットを当てるような周知は可能と考えますので、注目を集められるような仕掛けを考えてみたいと思っております。 <p>温泉の町民割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月26日を「お風呂の日」として、町民の方を対象とした日帰り入浴の割引サービスを実施しています。町内の各旅館・ホテルのお風呂をお得な料金で利用することができますので、ぜひお試しください。 <p>地域の温泉施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、温泉と健康をテーマとした施設の構想がありますので、具体的な要望、意見をいただきたいと思っております。 <p>情報発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信を地元出身の芸能人にアピールしてもらうのは、認知度、信頼性の向上、メディア露出への増加など魅力を伝えるには効果的な手段であると考え

		<p>ております。情報発信を行うのは誰が最適であるかも含めて考えてみたいと思います。</p>
--	--	--

地域資源の活用

インバウンド需要の拡大と外国人にやさしい観光地づくり

【M 三朝の M 魅力を M 魅せたい】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<p>➡Instagramなど SNS で三朝の観光案内や移住定住相談窓口についての情報を発信する。</p> <p>・アクセスをよくする</p> <p>➡空港などへの送迎バスを出す。</p> <p>・キャッシュレス決済を普及させる。</p> <p>➡買い物をする時に日本のお金に変えることは大変だと思うが、キャッシュレス決済であればお金を心配せずに買い物ができる。</p> <p>・ポケット Wi-Fi を貸し出しする。</p> <p>➡観光案内所で無料で貸し出しして、いつでも Wi-Fi 環境が使えるようにする。</p>	藤井紀課長	<p>➡Instagram等の SNS を活用した情報発信は、現在も町、三朝温泉観光協会、三朝温泉旅館協同組合、三朝町商工会等の観光団体や旅館毎にHP等で発信を行っています。引き続き、観光情報の発信を積極的に行います。</p> <p>➡鳥取空港と中部地区を結ぶ空港連絡バスは、三朝町を経由していましたが、現在倉吉駅までとなっております。これを三朝町までとなるよう関係先へ要望してまいります。</p> <p>➡キャッシュレス決済は、旅館等では広まりつつありますが、都会に比べて飲食店等では、整備が遅れています。交通手段や滞在先でキャッシュレス決済の利用が進むよう関係先と調整を図ります。</p> <p>➡まずは、三朝温泉観光協会にニーズの有無を確認します。</p>

・アナウンスを英語で放送する。

➡日本語で放送した後に、英語や中国語で同じことを放送して外国からの観光客や三朝に住んでいる外国の人が三朝の地で安心して過ごしてもらいたいです。

➡外国人旅行者にとって必要な情報については、SNS等で多言語発信しておりますが、アナウンスという手法も含めて、引き続き取り組みを進めます。

地域資源の活用

温泉を活かした健康づくりと若者が利用しやすい環境づくり 【I ターン対策】

解決策	担当職員	検討状況、対応方針等
<ul style="list-style-type: none">・ 町民は月に一回、特定の旅館の大浴場を無料でできる（各地域で交代して）・ 商店街や店に見出しを大きく張ったり、看板を出したりして、そこがどういう場所なのかをわかりやすくする。 （内装や特徴）・ 温泉の効能を各旅館や温泉にわかりやすいように、看板を立てる。・ 新しくできた施設の情報を SNS 等（TikTok）で発信する。	青木課長	<p>町民の温泉入浴は、集落等で管理する共同浴場や旅館が提供する日帰り入浴プラン、また、町民向けとして毎月 26 日を「風呂の日」として入浴ができるプランが提供されていますが、いずれも無料ではありません。必要な対価をいただいたうえで、利用しやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>温泉の健康効果や関連する情報については、その情報発信に努めているところですが、町民向けの情報が不足していると感じております。今回、町では「温泉を活用した健康まちづくり事業」に着手し、温泉を町民の健康づくりに生かすことをコンセプトにまちづくりを進めていこうとしております。いただいたご指摘を踏まえて、町民が温泉入浴を通じて健康づくりに取り組める仕組みについて工夫をしていきます。</p> <p>併せて、若者が利用しやすい温泉施設、運動施設についても検討し、具体化していきます。これらの場所が若者の交流と活力を生み出し、新たな三朝町の推進力となるよう、考えてみたいと思えます。</p> <p>中学生の皆さんにおかれましては、今後ともふるさと三朝町に関心を持ち続けていただき、将来的に様々な立場からその発展を支えていただく人材として、ご活躍いただくようお願いします。</p>